

ゲノム疾患治療研究部門 腫瘍外科研究分野研究概況

講	師	山	口	佳	之	
講	師	吉	田	和	弘 ^{*1}	
講	師	大	崎	昭	彦	(～平成18年 5 月)
助	手	檜	原		淳	
助	手	村	上		茂 ^{*1}	
助	手	田	辺	和	照	
助	手	右	近		圭 ^{*1}	
助	手	浜	井	洋	一 ^{*1}	
医	員	恵	美		学 ^{*1}	
医	員	水	入	寛	純 ^{*1}	
医	員	沖	田	理	貴 ^{*1}	
医	員	恵	美	純	子 ^{*1}	
医	員	弘	中	克	治	
大学院学生		沖	田	理	貴	
大学院学生		埴	本	純	哉	
大学院学生		弘	中	克	治	
大学院学生		松	浦	一	生	(～平成18年 3 月)
大学院学生		和	田	幸	之	(～平成18年 3 月)
大学院学生		鈴	木	崇	久	
大学院学生		水	入	寛	純	
大学院学生		岡	脇		誠	
大学院学生		眞	田	雄	市	
大学院学生		重	松	英	朗	
大学院学生		大	枝		守	
大学院学生		池	田	拓	広	
大学院学生		大	原	正	裕	
大学院学生		津	谷	康	大	
大学院学生		長	嶺	一	郎	
大学院学生		吉	山	智	幸	

*1 広島大学病院 消化器・内分泌・呼吸器外科（原医研）

（平成19年 3 月31日現在）

現在の当分野の研究目標は、がんの総合的な治療に関する基礎的ならびに臨床的研究にしばられている。現在の主要な研究テーマは次の如くである。

- (1) 胃癌の外科的治療・集学的治療に関する研究
- (2) 食道癌の外科的治療・集学的治療に関する研究
- (3) 乳癌の早期発見と外科的治療に関する研究
- (4) 大腸癌の外科的治療・集学的治療に関する研究
- (5) 肝癌の治療の開発に関する研究
- (6) 肺癌の治療の開発に関する研究
- (7) 癌の免疫療法に関する研究
- (8) 癌遺伝子および遺伝子治療に関する研究
- (9) 癌の化学療法とその効果増強に関する研究
- (10) 制癌剤感受性試験に関する研究
- (11) がん患者の Quality of Life に関する研究

以上のように、当分野における研究テーマはがんの制圧を目標としており、その動きは逐年的に報告されている原著ならびに学会の発表の中で明らかにされている。

人事面では、平成18年6月1日、大崎昭彦君が講師から埼玉医科大学に助教授として着任した。平成18年4月1日、弘中克治君が社会人大学院生兼医員となり、吉山知幸君が国立病院機構四国がんセンターから帰局し社会人大学院に入学した。

平成18年度の学位取得者は、水入寛純君、坪本純哉君、沖田理貴君、弘中克治君、眞田雄市君の5名である。小西和男君、鈴木崇久君、大枝守君、岡脇誠君、重松英朗君、池田拓広君、大原正裕君、長嶺一郎君、津谷康大君は引き続き大学院生としてそれぞれの分野で研究を行っている。

診療面では、医学部との円滑な協力のもとに、広島大学病院消化器・内分泌・呼吸器外科（原医研）として、がんの診断・治療を中心に一般外科領域の診療を行った。病棟においては、外科関連の8階東病棟、9階東病棟、6階西病棟、総合治療病棟を中心に、常時40人前後の在院患者の治療を行っている。

教育については、医学部医学科および歯学部歯学科の学生に対して外科学の診断・治療学講義を行い、医学科の学生に対してはさらに総合講義とチュートリアル、臨床実習を行っている。卒後臨床研修では、広島大学病院卒後臨床研修プログラムの外科を担当し、卒後1～2年目のローテーターに外科学の基本を指導している。後期研修以降は、外科腫瘍学だけでなく外科学一般を広く身に付けるために、関連病院を含めたローテーションを行い、日本外科学会専門医の取得が出来るようにしている。

平成18年（平成17年）に当科で治療した患者は、外来新患受診総数870（871）名、入院加療を行ったもの568（671）名、手術件数363（342）名、入院死亡25（30）名、剖検率4.0%（6.7%）であった。その詳細は表1に示すとおりである。DPCの導入により、在院日数の短縮や外来化学療法などの外来治療への移行が必要とされており、当科は率先して努力し病院経営に協力している。

表1 平成16年, 17年, 18年の外来・入院患者数および手術件数

疾患名	年	外来患者数			入院患者数			手術件数		
		16	17	18	16	17	18	16	17	18
消化器疾患										
食 道		52	63	70	86	130	127	30	26	38
胃		118	134	140	175	203	193	90	98	119
結腸・直腸		35	41	54	45	76	83	27	28	41
肝・胆・膵		27	25	22	38	44	27	9	7	11
小 計		232	263	286	344	453	430	156	159	209
内分泌疾患										
乳 腺		588	522	508	189	150	118	123	125	125
甲 状 腺		21	14	4	1	5	1	1	5	1
小 計		609	536	512	190	155	119	124	130	126
呼吸器疾患										
肺		38	28	27	35	49	17	29	19	21
そ の 他		33	44	45	20	14	2	30	34	7
総 計		912	871	870	589	671	568	339	342	363

(例数は各年とも1～12月の合計)

1. 研究課題：癌告知とQOL

参加研究者：山口佳之

目的：告知の程度と患者のQOLの関連性の有無を確認することを目的とする。

方法：当科に入院した癌患者を対象として告知の程度を4段階に分類し患者の自己記載方式によるアンケート調査を行い、各群間での相関の有無を検討する。

経過：現在、胃癌患者の手術前後での各群間でQOLを比較し相関の有無を検討するため、症例を集積している。

2. 研究課題：がんに対する免疫遺伝子治療

参加研究者：山口佳之, 恵美純子, 池田拓広, 弘中克治, 沖田理貴, 松浦一生, 長嶺一郎, 岡脇 誠, 檜原 淳

目的：ヒトがんに対する遺伝子治療として, ex vivo gene therapyであるcancer vaccineの確立を目的とする。

方法：腫瘍細胞にサイトカイン遺伝子を導入し, あるいは, 腫瘍細胞抽出したRNAを培養樹状細胞に遺伝子導入し, cancer vaccineとしての応用について検討している。

経過：interleukin-2 (IL-2) 遺伝子導入マウスがん細胞はIL-2を産生し, 不活化の後投与することで親株投与に対し有意に抵抗性となるvaccine効果を示した。in vitro においてもIL-2遺伝子導入腫瘍細胞はリンパ球に抗腫瘍活性を誘導する効果的な刺激細胞となることが確認された。腫瘍RNAを遺伝子導入した樹状細胞はCTL前駆細胞を活性化し, 腫瘍障害性を付与することが確認された。

3. 研究課題：自己リンパ球を用いたがん特異的免疫療法

参加研究者：山口佳之, 弘中克治, 恵美純子, 池田拓広, 沖田理貴, 松浦一生, 長嶺一郎, 岡脇 誠, 檜原 淳

目的：患者自己リンパ球をin vitro において活性化し, 自己腫瘍特異的リンパ球を誘導して治療に応用する。

方法：自己リンパ球の刺激細胞として, 1. がん抗原ペプチド (CEA, Her2/neu, SART, MART, MAGE, NY-ESO-1) をパルスした抗原提示細胞, 2. 腫瘍抽出mRNAを導入した抗原提示細胞, 以上を用い, in vitro において腫瘍特異的リンパ球を誘導し, 肺転移を対象に養子免疫療法としてPhase I/II臨床試験を実施する。

経過：過去のLAK, TIL, あるいは不活化自己腫瘍あるいは不活化HLA型一致他家腫瘍の刺激によって誘導された自己腫瘍特異的リンパ球が肺転移に対してある程度有効であることを認めている。当科より申請した活

性化自己リンパ球移入療法が、平成8年11月1日高度先進医療として認可され症例を集積している。新たな試みとして、IL-2遺伝子を腫瘍細胞に導入するとより効果的な刺激細胞になることが認められている。また、がん抗原ペプチドをパルスした抗原提示細胞によっても、より有能な自己腫瘍特異的リンパ球が誘導される。腫瘍RNAを遺伝子導入した樹状細胞はCTL前駆細胞を活性化し、腫瘍障害性を付与する。腫瘍RNA遺伝子導入樹状細胞では、がん抗原ペプチドの戦略が有するHLAの制限の問題や、腫瘍細胞を用いる戦略ではその細胞数に限りがある問題を考える必要がなく、より多くの患者を治療対象とできると考えられ、現実的である。

4. 研究課題：ペプチドパネルを用いたCTLエピトープのスクリーニング

参加研究者：山口佳之、川淵義治、弘中克治、恵美純子、池田拓広、沖田理貴、松浦一生、長嶺一郎、岡脇 誠、
檜原 淳

目的：HLA拘束性CTLエピトープが多数報告されている。同一母蛋白由来ペプチドであっても症例によってCTL precursorが異なり、CDR3の違いから反応性は異なることとなる。本研究においては、それぞれの症例によって用いられるべき最適のペプチドを同定するスクリーニング法を開発する。

方法：サイトカイン全血アッセイに準じ、培養液で希釈した全血をペプチド刺激し、上清中のIFN- γ をELISAで測定して、最適のペプチドを同定する。

経過：全血の希釈率は5倍、培養日数は4-5日が至適であった。症例によって1-2ペプチドにつきIFN- γ 陽性であり、陽性ペプチドは症例によって異なった。この結果はELISpotの結果と相関した。陽性ペプチドによってのみCTL誘導が可能であった。以上より、全血アッセイは簡便で鋭敏なアッセイである。現在、ELISAによる蛋白レベルのIFN- γ 測定とIFN- γ 遺伝子レベルの解析の関連を検討している。遺伝子で同定可能であれば、蛋白より早く目的ペプチドを判定できる可能性がある。また、同定されたCTL precursorおよび最適のペプチドの臨床的意義について検討している。

5. 研究課題：VEGF, Rreg-IVおよびRCAS-1蛋白のCTLエピトープの同定とCTLの誘導

参加研究者：山口佳之、岡脇 誠、恵美純子、池田拓広、弘中克治、沖田理貴、松浦一生、長嶺一郎、檜原 淳

目的：VEGF-Rは新生血管に発現するレセプターであり、RCAS-1はCTLにアポトーシスを誘導する免疫抑制性蛋白である。これら蛋白のCTLエピトープを同定し、CTLを誘導することを目的とする。

方法：VEGF-RおよびRCAS-1蛋白のアミノ酸配列より、HLA-A24のbinding motifに一致した9 mer sequenceを抽出し、CTL誘導について検討する。

6. 研究課題：抗腫瘍性Tリンパ球のT cell receptor CDR3の解析

参加研究者：山口佳之、恵美純子、池田拓広、弘中克治、沖田理貴、松浦一生、長嶺一郎、岡脇 誠、檜原 淳

目的：抗腫瘍性T細胞はTCRCDR3を介してがん抗原を認識し抗腫瘍作用を発揮している。がん免疫療法において抗腫瘍Tリンパ球のTCRCDR3を解明することは、TCRの治療的応用や、免疫状態および治療経過の遺伝子診断を可能とし、重要である。

方法：担がん患者リンパ球を各種腫瘍抗原ペプチドで刺激し、TCR usageを調べ、腫瘍障害責任TCRを同定して、そのTCRCDR3をクローニングする。CDR3 sequenceを用いてRT-PCR-Southern法により、CTL precursor frequencyの遺伝子診断法を確立する。また、TCR遺伝子導入によるリンパ球の特異性の付与を検討する。

経過：すでに複数のTCR遺伝子を同定しており、TCRCDR3遺伝子診断の臨床的意義を検討中である。

7. 研究課題：センチネルリンパ節における癌抗原特異的免疫反応の解析

参加研究者：山口佳之，松浦一生，大崎昭彦，沖田理貴，恵美純子，池田拓広，弘中克治，長嶺一郎，岡脇 誠，
檜原 淳

目的：センチネルリンパ節は見張りリンパ節といわれ，癌の転移がまっ先に成立するリンパ節である．言い換えると，癌の抗原情報が常に届けられていると考えることができる．センチネルリンパ節の抗原特異的な免疫能について解析する．

方法：術前癌患者末梢血単核球付着細胞分画より樹状細胞を誘導し，切除癌細胞より抽出したRNAあるいは患者HLAに結合可能なHer2抗原ペプチドを用いて抗原特異刺激とし，センチネルリンパ節リンパ球，その他のリンパ節リンパ球，および末梢血リンパ球を反応細胞として，抗原特異的・非特異的刺激によるIFN- γ 産生を測定し，センチネルリンパ節の抗原特異的な免疫能について検討する．

経過：腫瘍RNA遺伝子導入樹状細胞あるいはHer2抗原ペプチドパルス樹状細胞が，CTL前駆細胞を刺激して，特異的IFN- γ 産生を誘導することを認めている．

8. 研究課題：対がん移植片反応を応用したがん治療

参加研究者：山口佳之，南 一仁，恵美純子，池田拓広，弘中克治，沖田理貴，松浦一生，長嶺一郎，岡脇 誠，
檜原 淳，兵頭日出男*，木村昭郎*（*原医研血液内科）

目的：白血病治療における臨床的事実から対がん移植片反応の存在が認識され，CMLにおいては再燃後の標準治療として確立されようとしている．固形がんに対する有効性も検討される必要がある．

方法：現時点で有効な治療法の存在しない固形がん患者で，HLAの一致する同胞を有する症例を対象とし，allo-PBSCTを行ってGVHDおよび完全キメラを誘導し，安全性および抗腫瘍効果を検討する．さらにdonor lymphocyte infusion（DLI）を施行して，安全性および抗腫瘍効果を検討する．

経過：広島大学医学部倫理委員会承認され，すでに2例において実施されている．症例を蓄積中である．

9. 研究課題：非特異的免疫療法におけるToll-like-receptor（TLR）の関与

参加研究者：山口佳之，弘中克治，沖田理貴，松浦一生，恵美純子，池田拓広，長嶺一郎，岡脇 誠，檜原 淳

目的：TLR分子の発現と癌局所免疫療法の臨床成績との関連性について明らかにする．

方法：癌性胸・腹水患者に対して細菌製剤や蛋白多糖体などの非特異的免疫療法剤を用いて局所免疫療法を施し，その臨床効果と癌性胸・腹水局所細胞のTLR statusとの関連性について検討する．

10. 研究課題：がん患者における免疫抑制機序の解析とコンディショニングレジメンの確立

参加研究者：山口佳之，沖田理貴，恵美純子，池田拓広，弘中克治，松浦一生，長嶺一郎，岡脇 誠，檜原 淳

目的：がんに対する抗腫瘍免疫機構が分子遺伝子レベルで解明され，遺伝子治療やがんワクチンなど，それに基づく生物治療が21世紀の治療として試みられている．しかしながら，担癌生体には免疫抑制機構が存在し，期待される生物治療の妨げとなっている．がん患者における免疫抑制機序を解明し，それを制御することはがん治療成績の向上において急務である．

方法：免疫抑制因子としてIL-10，IAP，IL-2R，TGF-betaなどの因子，リンパ球活性化に必要な因子としてtelomerase，cell cycle regulator，growth factor，および細胞性因子としてCD4+CD25+調節細胞に着目し，担癌に伴う変化および外科治療，化学療法に伴う変化について検討する．CPM+フルダラビンのコンディショニングレジメンについて免疫抑制に対する効果を解析し，再発癌・難治癌に対する活性化自己リンパ球移入療法と併用して，新しい細胞治療の開発を目指す．

経過：担癌状態では，IL-10，TGF-betaの増加を認めている．ある腫瘍の糖蛋白がそれらの抑制機能に拮抗する．

また、がん患者リンパ球ではtelomeraseの機能不全があり、リンパ球の分裂寿命が短縮していることを認めている。

11. 研究課題：進行大腸がんに対する化学療法

参加研究者：山口佳之，恵美 学，弘中克治

目的：進行大腸がんに対する効果的な化学療法の確立

経過：CPT-11+LV+5-FUのCPT-11容量負荷試験（Phase I）を実施中である。進行大腸がん術後補助化学療法として、LV+5-FU vs CPT-11+LV+5-FUのRCTについて、多施設共同で研究する。UFT+LV経口投与の術後補助化学療法としての有用性について検討する。再発大腸癌に対し、LV+5-FU, low dose CPT-11, TS-1およびCPT-11+LV+5-FU, TS-1のsequential therapyを実施し、survival benefitについて検討する。

12. 研究課題：進行直腸がんに対するTS-1併用術前放射線化学療法

参加研究者：山口佳之，恵美 学，弘中克治

目的：進行直腸がんに対する効果的なTS-1併用術前放射線化学療法の確立

経過：進行直腸がんに対する術前放射線化学療法が注目されている。TS-1の至適投与量を検討し、腫瘍縮小率、肛門温存可能率、予後について検討する。

13. 研究課題：腹腔鏡下胃手術に関する基礎的、臨床的検討

参加研究者：吉田和弘，檜原 淳，田邊和照，右近 圭

腹腔鏡下手術はminimally invasive surgeryとして近年非常に注目されている手術法であるが、われわれは、胃粘膜下腫瘍、早期胃がんなどに応用すべく豚を用いた検討を行い、胃局所切除は可能であることを確認した。そこでまず、胃粘膜下腫瘍に対して胃局所切除を行い、手技的な問題は解決された。現在、生物学的悪性度を指標にした新しい局所切除基準に基づいて胃癌に対する腹腔鏡下胃局所切除術を検討し、臨床成績を集積している。

14. 研究課題：胃癌、乳癌における悪性度診断とその臨床応用

参加研究者：吉田和弘，大崎昭彦

目的：これらの癌での臨床病理学および分子生物学的特性を検討する。

方法：分子生物学の進歩によりこれまでに多くの genetic および epigenetic な変化が報告され、これらが患者の予後を規定することを報告してきた。しかしながら多くの情報が氾濫し真に有効なマーカーが明らかにされていないのが現状である。そこでこれらのマーカーについて真に重要なmoleculeを探索し臨床応用する手だてを考察する。特に消化器癌や乳癌での縮小手術の適応などに関して積極的に考慮する必要が考えられる。

15. 研究課題：胃癌におけるセンチネルリンパ節の検索と縮小手術の検討

参加研究者：吉田和弘，大崎昭彦

目的：胃癌におけるセンチネルリンパ節の検討を行い、縮小手術の可能性を検討する。

方法：早期胃癌症例に対し、従来より標準的なD2リンパ節郭清が行われてきた。しかしながら、m癌ではEMRや腹腔鏡手術の適応の拡大が行われている。そこで胃癌において、リンパ節郭清の省略の可能性について検討する目的で、腫瘍部近傍に色素やR Iを注入し癌が最初に転移するリンパ節を同定し、その転移の有無を検索し、リンパ節郭清の是非について検討する。さらには早期胃癌における神経温存手術の適応に関しても検討する。

16. 研究課題：胃癌における抗癌剤耐性因子の検索とその臨床応用

参加研究者：吉田和弘，田邊和照，右近 圭，檜原 淳

目的：抗癌剤の耐性因子を検討し効率のよい術後化学療法を検討する。

方法：胃癌化学療法は，臨床経験に基づいて投与薬剤や投与量，投与方法が選択されているのが現状である．従って臨床効果も不必要な投与が避けられないため，奏効率の低下や予後の延長が期待できない症例もみとめられる．そこで抗癌剤の耐性因子を検討することで，どのような症例にどういう薬剤を投与することが望ましいかを検討する．特にDPDやTSは5-FUの効果と相関することが示唆されている．またDNA microarray を用いて将来的には検索する予定である．

17. 研究課題：癌転移関連遺伝子の同定

参加研究者：吉田和弘，和田幸之，小西和男

目的：高転移細胞株と低転移細胞株を用いて転移関連遺伝子を検討する．

方法：乳癌細胞株MDA435を親株とし，肺に高率に転移を起こすMDA4A4および低転移株MDA2C5を得た．さらに胃癌細胞株MKN45を親株とし，腹膜播種を起こすMKN15Gを得た．これらの細胞株よりcDNA differential displayやDNA microarrayを用いた検討を併せて行い，癌転移に関連した遺伝子の同定を行い，臨床応用を検討する．

18. 研究課題：胃癌，食道癌におけるmicrometastasis の検討

参加研究者：吉田和弘，檜原 淳

目的：micrometastasisの有無を明らかにしその臨床的意義について検討する．

方法：胃癌手術時に行う洗浄細胞診に加えて，腹腔内CEAやテロメラーゼ活性，RT-PCRを用いたcytokeratin, CEAなどの検討を行い，腹腔内のmicrometastasisの可能性を追求する．さらに，胃癌や食道癌での郭清したリンパ節における検討も行い，再発や予後との相関を検索し適切な治療法につて考察する．

19. 研究課題：Orotate phosphoribosyl transferase (OPRT) 遺伝子を用いた遺伝子治療の試み

参加研究者：吉田和弘，田邊和照

目的：消化器がんにおいてOPRT遺伝子を導入し，5-FUの効果増強作用を検討する．

方法：食道がん，胃がん，大腸がん，膵がん等の細胞にretro viral vectorに組み込まれたOPRT遺伝子を導入する．OPRT遺伝子は5-FUをリン酸化し，細胞毒となり殺細胞効果が認められる．OPRT遺伝子の導入されたがん細胞でのin vitro, in vivoでの5-FUによる抗腫瘍効果の増強を検討し，遺伝子治療の可能性の基礎的検討を行なう．

20. 研究課題：胃癌におけるTS-1およびDocetaxel 併用療法の検討

参加研究者：吉田和弘，田邊和照，檜原 淳

目的：高度進行，再発胃癌患者に対する新たな治療法の確立を目的とすべく，TS-1およびDocetaxelの上乗せ効果を検討する．

方法：TS-1 80mg/m²を2週投与1週休止，Docetaxelを40mg/m²をday 1に投与し，3週を1サイクルとするプロトコルを開発し，phase I/II studyを行う．現在，phase Iが終了し推奨用量を決定した．さらにPhase IIへ移行して有効性について検討する．

21. 研究課題：高度進行，再発胃癌患者に対するTS-1 vs TS-1/TXT 療法のphase III study

参加研究者：吉田和弘，田邊和照，右近 圭，檜原 淳，浜井洋一

目的：高度進行，再発胃癌患者に対するTS-1 vs TS-1/TXT療法のphase III study

方法：胃癌化学療法First lineとしてTS-1療法が注目を浴びている．一方，併用薬剤としてDocetaxel (T X T)を使用することでその有効率が上昇することも知られている．そこでこれらの組み合わせと，TS-1単剤での予後の有用性を検証し，真に標準的治療の確立の目的でPhase III studyが全国規模で展開され，当施設でも参加の要請を受けて登録中である．

22. 研究課題：高度進行，再発胃癌患者に対するFP vs TS-1/TXT療法のrandomized phase II study

参加研究者：吉田和弘，田邊和照，右近 圭，檜原 淳，浜井洋一

目的：高度進行，再発胃癌患者に対するFP vs TS-1/TXT療法のrandomized phase II study

方法：胃癌化学療法の世界標準は現在F P療法である．我が国では多くの治療法の報告があるにもかかわらず，これらとの比較試験は行われていない．そこで今回我々の開発した，TS-1/TXT療法がF P療法と比べ優れているかどうかを検討し，全国規模でのrandomized phase II studyを展開する．

23. 研究課題：高度進行，再発胃癌患者に対するTS-1 vs TS-1/CPT-11療法の比較試験

参加研究者：吉田和弘，田邊和照，右近 圭，檜原 淳，浜井洋一

目的：高度進行，再発胃癌患者に対するTS-1 vs TS-1/CPT-11療法の比較を行う．

方法：胃癌化学療法First lineとしてTS-1療法が注目を浴びている．一方，併用薬剤としてCPT-11を使用することでその有効率が上昇することも知られている．そこでこれらの組み合わせと，TS-1単剤での予後の有用性を検証し，真に標準的治療の確立の目的での臨床試験が全国規模で展開され，当施設でも参加の要請を受けて登録中である．

24. 研究課題：胃癌におけるOxaliplatinの有用性

参加研究者：吉田和弘，和田幸之，田邊和照，右近 圭，小西和男

目的：OxaliplatinおよびTS-1併用の有用性について検討する．

方法：Oxaliplatinは大腸癌で有用であることが知られているが，胃癌に関してはあまり検討されていない．そこで，胃癌細胞株を用いてその有用性を検討し，さらにTS-1との併用についてin vitroおよびin vivoについて検討する．また，その併用効果のメカニズムについても検討する．

25. 研究課題：MAGE遺伝子のタキサンの効果予測での役割

参加研究者：吉田和弘，鈴木崇久，小西和男

目的：タキサン系抗癌剤の効果予測因子を検討する．

方法：タキサン系抗癌剤は胃癌にて有効性が認められている新規抗癌剤であるが，その薬剤感受性についてはほとんど検討されていない．卵巣癌細胞株を用いた解析から，MAGE遺伝子の発現がタキサン系抗癌剤の抵抗性に関与していることが明らかとなっている．MAGE遺伝子は，腫瘍免疫の標的分子として様々な検討が行われているが，胃癌組織を含む癌組織において，MAGE遺伝子の発現とタキサン系抗癌剤の感受性については全く検討されていない．胃癌症例についての検討を行う．

26. 研究課題：D P D 遺伝子のpromoter 領域のmethylationの検討

参加研究者：吉田和弘，水入寛純，大崎昭彦

目的：フッ化ピリミジン系抗癌剤の効果予測因子を検討する。

方法：フッ化ピリミジン系抗癌剤は胃癌にて有効性が認められている抗癌剤であるが，その薬剤感受性についてはD P Dが重要な役割を果たすことが知られている．またその発現には，promoter領域のmethylationが関与していることがわかった．そこで，フッ化ピリミジン系抗癌剤の感受性とD P Dのpromoter領域のmethylationとの相関を，胃癌，乳癌を中心に検討する．

27. 研究課題：胃癌，食道癌におけるIressaの有用性

参加研究者：吉田和弘，小西和男，重松英朗，大枝 守，檜原 淳

目的：胃癌，食道癌におけるIressaの有用性を検討する。

方法：胃癌や食道癌はEGFRを中心とした増殖シグナルにより，増殖進展をすることが知られている．一方Iressaはそのチロシンキナーゼインヒビターであることが知られており，肺癌では臨床応用されている．そこでIressaの増殖抑制作用や，抗癌剤との併用効果やそのメカニズムについて検討する．併せてEGFRのpoint mutationとその効果についても検討する．

28. 研究課題：胃癌，食道癌におけるlinoleic acidの増殖抑制効果

参加研究者：吉田和弘，大枝 守，小西和男，重松英朗，檜原 淳

目的：胃癌，食道癌におけるlinoleic acidの有用性を検討する。

方法：linoleic acidはPPAR gammaを介し細胞増殖抑制に関与することが乳癌や大腸癌で報告されている．一方我々はPPAR gammaのリガンドが，細胞増殖を阻害することを報告してきた．そこで今回はlinoleic acidが，in vitroおよびin vivoにおいて，細胞増殖抑制効果や，抗癌剤との併用効果が認められるかどうかを検討する．

29. 研究課題：胃癌におけるTS-1の補助化学療法における有用性

参加研究者：吉田和弘，田邊和照，右近 圭，檜原 淳，浜井洋一

目的：胃癌手術後のTS-1による補助化学療法の有用性について検討する。

方法：胃癌切除後における化学療法の有用性は証明されていない．しかしながら進行癌においては，治癒切除が行われたにもかかわらず多くの症例が再発を起こしている．そこで，治癒切除後の再発予防目的でTS-1を用い，その有用性を検討する．全国規模での臨床試験が行われおり，積極的に参画している．

30. 研究課題：胃癌におけるTS-1, paclitaxelの補助化学療法における有用性

参加研究者：吉田和弘，田邊和照，右近 圭，檜原 淳，浜井洋一

目的：胃癌手術後のTS-1, paclitaxelによる補助化学療法の有用性について検討する。

方法：胃癌切除後における化学療法の有用性は証明されていない．しかしながら進行癌においては，治癒切除が行われたにもかかわらず多くの症例が再発を起こしている．そこで，治癒切除後の再発予防目的でTS-1やpaclitaxelを用い，その有用性を検討し，これまで行われてきたU F T治療との比較を行う．全国規模での臨床試験が行われおり，積極的に参画している．

31. 研究課題：胃癌におけるweekly Taxol療法の検討

参加研究者：吉田和弘，田邊和照

目的：高度進行，再発胃癌患者に対するsecond lineとしてのweekly Taxol療法の有用性について検討する。

方法：胃癌化学療法First lineとしてTS-1療法が注目を浴びている。しかしながらsecond lineとして，確立された治療法はない。そこで，高度進行，再発胃癌患者に対するsecond lineとしてのweekly Taxol療法の有用性について検討すべく，phase I/II studyを計画し，実施している。

32. 研究課題：胃癌におけるTS-1およびCDDP併用療法の検討

参加研究者：吉田和弘，田邊和照

目的：高度進行，再発胃癌患者に対するTS-1 vs TS-1/CDDP療法のphase III study

方法：胃癌化学療法First lineとしてTS-1療法が注目を浴びている。一方，併用薬剤としてCDDPを使用することでその有効率が上昇することも知られている。そこでこれらの組み合わせと，TS-1単剤での予後の有用性を検証し，真に標準的治療の確立の目的でPhase III studyが全国規模で展開され，当施設でも参加の要請を受けて登録中である。

33. 研究課題：胃癌におけるTS-1およびI-LV+5Fu療法の比較の検討

参加研究者：吉田和弘，田邊和照，檜原 淳

目的：高度進行，再発胃癌患者に対するTS-1 vs I-LV+5Fu療法のphase III study

方法：胃癌化学療法First lineとしてTS-1療法が注目を浴びている。一方，I-LV+5Fu療法は優れた有効率のみならず，QOLを保持しつつ外来で通院治療が可能である。そこでこれらの治療法の予後における有用性を検討する目的でPhase III studyが全国規模で展開され，当施設でも参加の要請を受けて登録中である。

34. 研究課題：機能温存胃切除術における残胃機能の検討

参加研究者：吉田和弘，田邊和照，右近 圭

目的：胃癌に手術においても迷走神経温存胃切除術，幽門輪温存胃切除術など機能温存手術が行われるようになり，術後愁訴や体重減少に有効であるという報告は認められるものの，科学的に本術式の有用性を検討した論文は少ない。我々は胃切除術後に腹部超音波をもちいて胃の拡張の排泄能，十二指腸胃逆流につき検討を行っている。また同時に13Cやカプセル法による直接間接胃排泄試験を行い機能温存胃切除術と従来の胃切除術の残胃機能の検討を行っている。

35. 研究課題：再発・進行乳癌に対するpaclitaxel weekly投与の至適投与量の検討

参加研究者：大崎昭彦，村上 茂，恵美純子

目的：再発・進行乳癌に対するpaclitaxel weekly投与の至適投与量と安全性を検討する。

方法：投与スケジュールは，1カ月を1サイクルとして80mg/m²を3週間連続，1週休薬でshort premedicationの後，1時間で点滴静注する。

経過：現在，phase I studyとして，Step 1（60mg/m²），Step 2（70mg/m²），Step 3（80mg/m²）が終了し，Step 4（90mg/m²）の最後の症例が登録され，データを解析中である。

36. 研究課題：再発・進行乳癌に対するweekly paclitaxelとUFTの至適投与量の検討

参加研究者：大崎昭彦，村上 茂，恵美純子

目的：再発・進行乳癌に対するpaclitaxel weekly投与とUFTの併用療法における安全性および効果について増量試験により検討する。

方法：投与スケジュールは，1カ月を1サイクルとして80mg/m²を3週間連続，1週休薬でshort premedicationの後，1時間で点滴静注する．UFTは，第1日より3週間連日経口投与し，1週間休薬する。

経過：既に，phase I studyが終了し，推奨用量は，Paclitaxel 70mg/m²，UFT 400mg/bodyとなった．現在，phaseII studyが院内のIRBの承認を得て，進行中である。

37. 研究課題：40歳以上を対象にしたマンモグラフィ併用検診の成績と問題点

参加研究者：大崎昭彦，村上 茂，恵美純子，吉田和弘

目的：乳癌検診の発見感度を高める目的で，平成9年4月よりスクリーニングマンモグラフィ（SMG）を導入した乳癌検診を行い，その成績と問題点につき検討する。

方法：対象は，広島県対協健康管理・増進センターを訪れた乳癌検診受診者のうち，40歳以上の希望者で，SMGの撮影は斜側一方向（MLO）で行う。

経過：SMGを施行した受診者は，平成9年度，10年度でそれぞれ1900人，1745人で，要精検者数はそれぞれ450人，339人（要精検率はそれぞれ23.7%，19.4%）であった．乳癌発見率はそれぞれ0.63%，0.80%であった．施設検診で40歳以上の希望者という対象でbiasはかかっているものの，乳癌発見率は0.63%，0.80%と高率であり，SMG併用検診の有用性が示唆された．しかし，費用・効果比を考慮すると，要精検率が，適正とされる5%前後よりかなり高いことが問題であった．平成11年度よりdouble check方式にて読影を行うことで，精検率が10%強に改善された．現在，対象者を絞り込むため乳癌のhigh risk groupにおける発見率の検討を行っている．厚生労働省の打ち出したマンモグラフィを併用した乳がん検診の裏づけとなる貴重なデータを提供できると思われる。

38. 研究課題：乳癌患者を対象にした色素法およびラジオアイソトープ（RI）標識法によるsentinel lymph nodes（前哨リンパ節）同定法に基づいたリンパ節郭清法の検討

参加研究者：大崎昭彦，村上 茂，松浦一生，恵美純子

目的：乳癌におけるセンチネルリンパ節（SN）の簡便かつ正確な同定法を開発する。

方法：N0乳癌患者を対象に色素法と γ -probe法を併用して行っている．色素法は，インジゴカルミン3～5mlを腫瘍近傍乳輪皮下1カ所に注入しマッサージは行わない．投与後5～15分で，sentinel nodeに到達するように切開，皮下切離を行う． γ プローブ法は，原則として手術前日（月，水）の3p.m.にRIセンターにて皮内に注入することとし，RIの種類は99mTc-フチン酸18.5MBq生食0.25mlを23G針で腫瘍直上の皮内1カ所に注入する（＊第一ラジオアイソトープ研究所）．投与後40分（5分毎），2時間後にリンパ管シンチグラフィを行う。

経過：色素法と γ プローブ法併用によるsentinel nodeの同定率は98%以上に向上し，false negative rateは6%となり臨床における実施に向け準備が整った．全国展開のSNNS研究会のT1-2N0乳癌における標準的なセンチネルリンパ節生検法の確立に関する研究にも参加し，平成16年12月22日，院内IRBの承認を得て，登録を開始した。

39. 研究課題：乳癌患者を対象にしたsentinel lymph nodes（前哨リンパ節），末梢血および骨髄のmicrometastasisの臨床的意義に関する研究

参加研究者：大崎昭彦，村上 茂，松浦一生，恵美純子

目的：乳癌において同定されたセンチネルリンパ節（S N）および骨髄へのmicrometastasisの臨床病理学的意義を確立することを目指して以下の検討を行った。

方法：臨床的にN0乳癌と診断され、インジゴカルミンを用いた色素法とγプローブ法を併用したセンチネルリンパ節生検（S N B）を行った症例を対象に、同定し摘出したセンチネルリンパ節、術前、術中末梢血、腸骨から採取した骨髄液について以下の方法でmicrometastasisを検索する。具体的には、検体からtotal RNAを抽出した後、定量的RT-PCRに供する。P C RにはC E A、Mammaglobin（M M G）をマーカーとして用い、GAPDHをコントロールとして検出する。

経過：検出限界はC E A、M M Gともに107個の単核細胞中1個のがん細胞を検出可能であった。術中末梢血はC E A、M M Gともに陽性率が高く、有用なマーカーとはいえ、術前末梢血、骨髄は単独または両者を組み合わせることで、リンパ節転移の有無と強い相関性が認められた。S NのP C Rによるmicrometastasisの検索はH & E、捺印細胞診よりも転移陽性の頻度は高かったが、P C RのみでS N転移陽性の症例ではほとんど骨髄のP C Rでも陽性であった。

40. 研究課題：乳癌におけるセンチネルリンパ節と骨髄における微小転移と免疫学的指標の関連性についての研究

参加研究者：大崎昭彦，村上 茂，松浦一生，恵美純子

目的：乳癌におけるセンチネルリンパ節の検索を行い、同定されたセンチネルリンパ節と末梢血、骨髄における微小転移と免疫学的指標との関連性を検討する。センチネルリンパ節の転移診断はH E 染色、捺印細胞診、免疫細胞染色にて行い、センチネルリンパ節、末梢血、骨髄液でC E A、mammaglobin（M M G）をマーカーとしたRT-PCRを行い、センチネルリンパ節ではCD83等の免疫学的指標をマーカーとしてRT-PCRも行う。これまでのデータによると転移のあるセンチネルリンパ節において成熟樹状細胞の指標であるCD83mRNAの発現量が多く、Th1系サイトカインの産生も認められ、腫瘍特異的免疫反応が誘導されている可能性が示唆される。

41. 研究課題：手術侵襲と癌転移に関する研究

参加研究者：檜原 淳，浜井洋一，和田幸之，吉田和弘，山口佳之

目的：手術を契機として癌が増大する現象は以前より知られており、われわれはこの現象に活性酸素が関与し、ラジカススカベンジャーにより転移を抑制しうることをラットモデルで示してきた。サイトカインなどの炎症性メディエータや好中球を介する転移促進のメカニズムをさらに解析し、これらを制御することにより、侵襲による転移を抑制する臨床応用可能な方法を探索する。

42. 研究課題：蛍光ビーズを用いたセンチネルリンパ節（S N）同定の研究

参加研究者：檜原 淳，浜井洋一，恵美 学，吉田和弘

目的：食道癌においてsentinel node conceptが成立するならば、リンパ節郭清の縮小や省略による縮小手術の可能性が開かれ、患者負担の軽減と術後合併症の減少が期待できる。

方法：胸腔内リンパ節は炭粉沈着による黒色化で通常の色素法でのS N同定は困難であり、R I 法は規制がありどここの施設でも施行可能なわけではない。蛍光ビーズを用いた本法は上記の問題を克服でき、動物実験で安全性が確認された。

経過：現在、臨床例で有用性を検討中である。

43. 研究課題：食道癌術後補助療法に関する研究

参加研究者：檜原 淳，浜井洋一，恵美 学，吉田和弘

目的：食道癌に対する有効な術後補助療法を開発する。

方法：食道癌根治切除後の補助療法として、化学療法あるいは化学放射線療法を加えることにより、食道癌の治療成績が向上することが期待される。これまで術後CDDP+5-FU併用化学放射線療法を施行してきたが、その有効性を証明することができなかった。Docetaxel+5-FUなど新規抗癌剤を用いたプロトコルを開発することにより、有効な術後補助療法の開発を目指している。

44. 研究課題：進行食道癌に対する術前化学放射線療法の有効性と安全性に関する研究

参加研究者：檜原 淳，浜井洋一，恵美 学，吉田和弘

目的：術前化学放射線療法の有効性を検討する。

方法：当科においては、T4の疑われる例および複数個とくに2領域以上にリンパ節転移がまたがる例を適応として術前化学放射線療法を施行している。治療成績のみならず、術前の至適照射量、手術までの至適期間、術後合併症・術後経過への影響など、未だ明らかになっていない点についても検討を行っている。

45. 研究課題：切除不能進行食道癌に対する化学放射線療法の臨床第I/II相試験

参加研究者：檜原 淳，浜井洋一，恵美 学，吉田和弘

目的：これまで切除不能進行食道癌に対し、CDDP+5FUを併用した化学放射線療法を行ってきたが、奏効率は65%前後と満足のいく結果は得られおらず、より有効なプロトコルの開発が急務である。

方法：Docetaxelと5FUを併用した新しい化学放射線療法のレジメンを作成し、その有効性を検討する。経過：現在、臨床第I相試験が終了し、臨床第II相試験が進行中である。

46. 研究課題：手術侵襲に対する生体反応の制御に関する研究

参加研究者：檜原 淳，浜井洋一，恵美 学，吉田和弘，山口佳之

目的：食道癌手術などの過大侵襲が生体に加わると生体は過剰反応を示し、高サイトカイン血症、全身性炎症反応症候群（SIRS）の状態となる。SIRSは多臓器不全（MOF）の準備状態とも考えられ、術後合併症などのsecond attackが加わると容易にMOFへと移行する。生体過剰反応の制御が食道癌術後経過にあたる影響について検討する。

経過：食道癌手術の周術期にステロイド、プロテアーゼインヒビターなどの薬剤を投与し、血中IL-6, IL-8, IL-10濃度の変化と人工呼吸管理期間や術後合併症の頻度などの術後経過、および長期予後に与える影響について検討している。

47. 研究課題：GFP遺伝子導入癌細胞を用いた癌転移モデルを用いた研究

参加研究者：檜原 淳，和田幸之，吉田和弘

目的：GFP（green fluorescent protein）は発光オワンクラゲ由来の緑色蛍光蛋白質で、生体内での細胞標識に応用可能である。これを遺伝子導入し標識した癌細胞を用いることにより、従来の癌転移モデルよりも詳細に生体内での癌細胞の増殖、転移を観察することが可能となる。

経過：このGFPシステムを応用した癌転移モデル（尾静脈投与、同所性移植）を確立し、将来的には薬剤の転移予防効果、治療効果を判定するために用いる予定である。

48. 研究課題：食道癌周術期における栄養管理に関する研究

参加研究者：檜原 淳，浜井洋一，恵美 学，吉田和弘，山口佳之

目的：食道癌患者においては術前より経口摂取困難な症例が多く、手術時すでに低栄養状態となっている場合が

少なくない。さらに過大な手術侵襲が加わるうえに7日間前後の絶飲食期間を乗り切らなければならないため、栄養管理には細心の注意を要する。食道癌周術期における脂肪乳剤投与の効果や経管栄養の有用性につき検討する。

49. 研究課題：気道系病変に対するintervention：レーザーおよびステント療法

参加研究者：浜井洋一，檜原 淳，沖田理貴

目的：特に悪性腫瘍による気道系病変に対しレーザーおよびステント療法の安全性と効果を検討する。

方法：肺癌，食道癌における気道狭窄および気管食道瘻に対し，全身麻酔下に硬性気管支鏡および軟性気管支鏡を用い，レーザー治療および気管ステント留置を行った。

経過：年間約10例に施行しており，手技的にはほぼ全例目的を達成している。

A. 原 著

1. Yamaguchi, Y., Okita, R., Emi, A., Hironaka, K., Okawaki, M., Ikeda, T., Ohara, M., Nagamine, I., Hihara, J.: Adoptive immunotherapy of cancer using autologous lymphocytes. Cancer Growth and Progression, (ed. Prof. Mineev, B.), Moores U.C.S.D. Cancer Center, La Jolla, C.A., 2006. (in press)
2. 大崎昭彦：転移性乳がんにおける経口フック化ピリミジンの位置づけ。乳がん標準化学療法の実際（佐伯俊昭編），pp107-111，金原出版，東京，2006.
3. Yamaguchi, Y., Minami, K., Kawabuchi, Y., Ohshita, A., Hironaka, K.: A phase I trial of CPT-11 and S-1 combination chemotherapy in patients with metastatic colorectal cancer. Hepato-Gastroenterology 2006. (in press)
4. Yamaguchi, Y., Sawamura, A., Minami, K.: Clinical trial of low-dose leucovorin plus 5-fluorouracil for patients with metastatic colorectal cancer. Hepato-Gastroenterology, 2006. (in press)
5. Yamaguchi, Y., Ohshita, A., Hironaka, K., Okita, R., Okawaki, M., Matsuura, K., Nagamine, I., Ikeda, T., Ohara, M., Hihara, J.: Adoptive immunotherapy using autologous lymphocytes sensitized with HLA class I-matched allogeneic tumor cells. Oncol. Rep. 16: 165-169, 2006.
6. Yamaguchi, Y., Hihara, J., Hironaka, K., Ohshita, A., Okita, R., Okawaki, M., Matsuura, K., Nagamine, I., Ikeda, T., Ohara, M., Hamai, Y.: Postoperative immunosuppression cascade and immunotherapy using lymphokine-activated killer cells for patients with esophageal cancer-Possible application for compensatory anti-inflammatory response syndrome-. Oncology Rep. 15: 895-901, 2006.
7. Yamaguchi, Y., Minami, K., Kawabuchi, Y., Emi, M.: A phase I trial of CPT-11 in combination with 5-Fluorouracil plus leucovorin chemotherapy for patients with metastatic colorectal cancer. Hepato-Gastroenterology 53: 201-205, 2006.
8. Yoshida, K., Ninomiya, M.¹, Takakura, N.¹, Hirabayashi, N.², Takiyama, W.², Sato, Y.³, Todo, S.³, Terashima, M.⁴, Goto, M.⁴, Sakamoto, J.⁵, Nishiyama, M.⁶(¹Hiroshima City Hospital, ²Asa City Hospital, ³Hokkaido University, ⁴Fukushima Medical University, ⁵Kyoto University, ⁶Department of Translational Cancer Research, Division of Medical intelligence and informatics Graduate School of Biomedical Sciences, Hiroshima

- University): Phase II study of docetaxel and S-1 combination therapy for advanced or recurrent gastric cancer. *Clin Cancer Res.*12: 3402-3407, 2006.
9. Yoshida, K., Hamai, Y., Suzuki, T., Sanada, Y., Oue, N.^{*}, Yasui, W. ^{*}(*Department of Molecular Pathology Graduate School of Biomedical Sciences Hiroshima University) : DNA methylation of CHFR is not a predictor or the response to docetaxel and paclitaxel in advanced and recurrent gastric cancer. *Anticancer Res*, 26: 2006.49-54, 2006.
 10. Kuniyasu, H.¹, Yoshida, K., Sasaki¹, T., Sasahira, T.¹, Fujii, K.¹, and Ohmori, H.¹. (¹Department of Pathology, Nara Medical University) Conjugated linoleic acid inhibits peritoneal metastasis in human gastrointestinal cancer cells. *Int J Cancer*. 118: 571-576, 2006.
 11. Cho, S.¹, Kitadai, Y.¹, Yoshida, S.¹, Tanaka, S.¹, Yoshihara, M.¹, Yoshida, K., Chayama, K.¹. (¹Department of Internal Medicine, Hiroshima University, School of Medicine) Deletion of the KIT gene is associated with liver metastasis and poor prognosis in patients with gastrointestinal stromal tumor in the stomach. *Int J Oncol*, 28: 1361-1367, 2006. "
 12. Aung, PP.¹, Oue, N.¹, Mitani, Y.¹, Nakayama, H.¹, Yoshida, K., Noguchi, T.¹, Bosserhoff, AK.¹, Yasui, W.¹. (¹Department of Molecular Pathology, Hiroshima University, School of Medicine) Systemic search for gastric cancer-specific genes based on SAGE data: melanoma inhibitory activity (MIA) and matrix metalloproteinase-10 (MMP-10) are novel prognostic factors in patients with gastric cancer. *Oncogene*, 25: 2546-2557, 2006.
 13. Oue, N.¹, Mitani, Y.¹, Motoshita, J.¹, Matsumura, S.¹, Yoshida, K., Kuniyasu, H.¹, Nakayama, H.¹, Yasui, W.¹. (¹Department of Molecular Pathology, Hiroshima University, School of Medicine) Accumulation of DNA methylation is associated with tumor stage in gastric cancer. *Cancer* 106: 1250-1259, 2006.
 14. Sasaki, T.¹, Yoshida, K., Shimura, H.¹, Ichiba, M.¹, Sasahira, T.¹, Shimomoto, T.¹, Denda, A.¹, Kuniyasu, H.¹. (¹Department of Pathology, Nara Medical University) Inhibitory effect of linoleic acid on transformation of IEC6 intestinal cells by in vitro azoxymethane treatment. *Int. J Cancer*, 118: 593-599, 2006.
 15. Shimokuni, T.¹, Tanimoto, K.¹, Hiyama, K.¹, Otani, K.¹, Ohtaki, M.¹, Hihara, J., Yoshida, K., Noguchi, T.¹, Kawahara, K.¹, Natsugoe, S.¹, Aikou, T.¹, Okazaki, Y.¹, Hayashizaki, Y.¹, Sato, Y.¹, Todo, S.¹, Hiyama, E.¹, Nishiyama, M.¹. (¹Department of Translational research, Research Institute for Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University) Chemoresensitivity prediction in esophageal squamous cell carcinoma: Novel marker genes and efficacy-prediction formulae using their expression data. *Int J Oncol*. 2006 May;28(5):1153-62.
 16. Sasaki, Y.¹, Sasahira, T.¹, Ohmori, H.¹, Yoshida, K., Kuniyasu, H.¹ (¹Department of Pathology, Nara Medical University) Conjugated linoleic acid reduced metastasized LL2 tumors in mouse peritoneum. *Virchows Arch* 449: 341-347, 2006.
 17. Cho, S.¹, Kitadai, Y.¹, Yoshida, S.¹, Tanaka, S.¹, Yoshihara, M.¹, Yoshida, K., Chayama, K.¹. (¹Department of Internal Medicine, Hiroshima University, School of Medicine) Genetic and pathologic characteristics of gastrointestinal stromal tumors in extragastric lesions. *Int. J. Mol. Medicine* 18: 1067-1071, 2006.
 18. Ohshita, A., Yamaguchi, Y., Minami, K., Okita, R., Toge, T. :Generation of tumor-reactive effector lymphocytes

- using tumor RNA-introduced dendritic cells in gastric cancer patients. International Journal of Oncology, 28(5), 1163-1171, 2006.
19. Taomoto, J., Yoshida, K., Wada, Y., Tanabe, K., Konishi, K., Tahara, H., Fukushima, M.: Overexpression of orotate phosphoribosyl transferase (OPRT) gene enhances the effect of 5-FU on gastric cancer cell lines. Oncology, 70: 458-464, 2006.
 20. Wada, Y., Yoshida, K., Suzuki, T., Mizuiri, H., Konishi, K., Ukon, K., tanabe, K., Sakata, Y., Fukushima, M.: Synergistic Effects of Docetaxel and S-1 by Modulating the Expression of Metabolic Enzymes of 5-fluorouracil in Human Gastric Cancer Cell Lines. Int J Cancer 119: 783-791, 2006.
 21. Wada, Y., Yoshida, K., Hihara, J., Jyunya, T., Suzuki, T., Mizuiri, H., Konishi, K., Ukon, K., Tanabe, K.: A specific neutrophil elastase inhibitor, sivelestat, suppresses the growth of gastric carcinoma cells by preventing the release of TGF- α Cancer Sci, 97, 1037-1043, 2006.
 22. Tsutani Y., Ohsumi S.¹, Aogi K.¹, Taira N.¹, Kataoka M.², Hamamoto Y.², Nishimura R.³, Takashima S.¹ (¹Department of Surgery, ²Department of Radiology, ³Department of Pathology, Shikoku Cancer Center): A case of metastatic breast cancer with HER2 gene amplification that responded completely to single agent trastuzumab.: Breast Cancer 13,374-377,2006.
 23. 山口佳之, 沖田理貴, 弘中克治, 岡脇 誠, 長嶺一郎, 池田拓広, 大原正裕, 恵美純子, 松浦一生, 檜原 淳: OK-432におけるエビデンス. Biotherapy 20 : 375–380, 2006.
 24. 吉田和弘, 和田幸之, 田辺和照, 右近圭, 檜原淳: 高度進行・再発胃癌におけるS-1+Docetaxel (2週投与1週休薬) 併用療法の有用性 癌と化学療法: 33: 83–86, 2006.
 25. 吉田和弘: 研修医からの質問 Q & A. 臨床腫瘍プラクティス 2 : 318, 2006.
 26. 檜原 淳, 吉田和弘, 浜井洋一, 恵美 学, 大下純子, 右近 圭, 田辺和照, 水入寛純, 鈴木崇久, 清水克彦, 沖田理貴, 村上 茂, 大崎昭彦, 山口佳之, 峠 哲哉: 過去16年間の当科における食道癌の治療成績. 広島医学 59 (6), 501–507, 2006.
 27. 浜井洋一, 山口佳之, 右近 圭, 田辺和照, 檜原 淳, 吉田和弘: 胃癌腹膜播種による穿孔性虫垂炎の1例. 日本臨床外科学会雑誌, 67, 1810–1814, 2006.
 28. 恵美 学, 地主和人, 住元 了: 胃癌を契機に発見された腹膜偽粘液腫の1例. 日消外会誌. 39: 1517–1522, 2006.
 29. 恵美 学, 吉田和弘, 檜原 淳, 浜井洋一, 山口佳之: 皮膚筋炎に合併した食道癌の1例. 日臨外会誌. 67, 1546–1549, 2006.
 30. 大枝 守, 吉田和弘, 眞田雄市, 和田幸之, 鈴木崇久, 水入寛純, 小西和男, 重松英朗, 田辺和照, 福島正和: 胃癌におけるOPRT・DPDの発現と臨床学的意義. Oncology Reports, 16, 1165–72, 2006.
 31. 津谷康大, 久保義郎*, 棚田 稔*, 柿下大一*, 沖田充司*, 野崎功雄*, 南 一仁*, 青儀健二郎*, 栗田 啓*,

高嶋成光* (*四国がんセンター外科)：十二指腸に穿破，出血し緊急臍頭十二指腸切除術を施行した臍仮性嚢胞の1例．日本消化器外科学会雑誌，39（2），232－236，2006．

32. 津谷康大，久保義郎*，栗田 啓*，高嶋成光*，寺本典弘*，佐伯英行** (*四国がんセンター外科，**住友別子病院外科)：初回手術より9年後に再発した腸間膜由来solitary fibrous tumorの1例．手術，60（5），671－675，2006．

B. 発 表

1. Tsutani Y., Yoshida K., Oeda M., Sanada Y., Shigematsu H., Wada Y., Suzuki T., Konishi K., Hihara J.: Immunohistochemical analysis of thymidylate synthase, dihydropyrimidine dehydrogenase and orotate phosphoribosyltransferase in esophageal carcinoma. 16th International Symposium of the Hiroshima Cancer Seminar, Hiroshima, 2006.
2. 山口佳之，弘中克治，恵美 学：進行・再発大腸癌に対するTS-1+CPT-11併用化学療法のPhase I/II study．第106回日本外科学会総会，東京，2006．
3. 山口佳之，沖田理貴，大下純子，弘中克治，松浦一生，岡脇 誠，大原正裕，池田拓広，長嶺一郎，檜原 淳：進行・再発消化器癌に対する活性化自己リンパ球移入療法．パネルディスカッション8「消化器癌と分子生物学－臨床応用に向けて－」．第61回日本消化器外科学会総会，横浜，2006．
4. 山口佳之，岡島正純*，西原雅浩*，小関萬里*，立本直邦*，大崎俊英*，中井 肇*，馬場信年* (*広島G I Sクラブ)：根治不能大腸癌をどうするか？ 広島における現状？．第68回日本臨床外科学会総会，広島，2006．
5. 山口佳之，沖田理貴，長嶺一郎，岡脇 誠，大原正裕，池田拓広，弘中克治，恵美純子，松浦一生，檜原 淳：CD4+CD25++Treg細胞制御を併用した活性化自己リンパ球移入療法．第44回日本癌治療学会総会，東京，2006．
6. 山口佳之，沖田理貴，岡脇 誠，大原正裕，池田拓広，弘中克治，長嶺一郎，松浦一生，恵美純子，檜原 淳：活性化自己リンパ球移入療法の新展開．シンポジウム2「免疫・細胞療法のブレイクスルー」．第19回日本バイオセラピー学会学術集会総会，福岡，2006．
7. 吉田和弘，檜原 淳，田辺和照，右近 圭，山口佳之．食道癌・胃癌における新規抗癌剤の有用性．第39回制癌剤適応研究会 主題シンポジウム．福岡，2006．
8. 吉田和弘，二宮基樹¹，高倉範尚¹，平林直樹²，多幾山渉²，佐藤祐二³，藤堂 省³，寺島雅典⁴，後藤満一⁴，坂本純一⁵，西山正彦⁶ (¹広島市民病院，²広島市立安佐市民病院，³北海道大学，⁴福島県立医科大学，⁵京都大学，⁶広島大学大学院医歯薬学総合研究科遺伝子診断・治療開発)：進行・再発胃癌に対するS-1 とDocetaxel 併用療法の第2層臨床試験（最終報告）．第78回日本胃癌学会総会，大阪，2006．
9. 吉田和弘，檜原 淳，浜井洋一，恵美 学，田辺和照，右近 圭，山口佳之，宮本義洋：胃切除後食道癌に対する再建術とその再手術の工夫．第61回日本消化器外科学会定期学術総会，横浜，2006．
10. 吉田和弘：消化器癌化学療法の治療戦略．胃癌におけるCPT-11の 2nd line chemotherapyでの臨床的位置づけ．ランチョンセミナー29．第61回日本消化器外科学会定期学術総会，横浜，2006．

11. 吉田和弘, 檜原 淳, 浜井洋一, 田辺和照, 恵美 学, 右近 圭, 山口佳之: 食道癌術後再建における安全な吻合。第60回日本食道学会総会, 東京, 2006.
12. 吉田和弘, 田辺和照, 右近 圭, 檜原 淳, 浜井洋一, 恵美 学, 水入寛純, 弘中克治, 山口佳之: 胃癌化学療法における治療戦略。第81回中国四国外科学会総会 シンポジウム 抗癌化学療法, 岡山, 2006.
13. 吉田和弘, 杉山真一, 大上直秀, 安井 弥: 胃癌におけるD P D遺伝子のDNAメチル化の解析。第65回日本癌学会総会, 横浜, 2006.
14. 吉田和弘, 田辺和照, 右近 圭, 檜原 淳, 浜井洋一, 恵美 学, 水入寛純: StageIV胃癌に対するAdjuvant surgeryの有用性。第44回日本癌治療学会総会, 東京, 2006.
15. 吉田和弘, 田辺和照, 右近 圭, 檜原 淳, 浜井洋一, 恵美 学, 水入寛純: 胃全摘における安全な機械吻合。第68回日本臨床外科学会総会, 広島, 2006.
16. 吉田和弘, 田辺和照, 右近 圭, 檜原 淳, 浜井洋一, 恵美 学, 水入寛純: 胃癌における術前化学療法の有用性- adjuvant surgeryは有効か-。第68回日本臨床外科学会総会, 広島, 2006.
17. 吉田和弘: スムーズにLADGを導入するためのコツ。第19回日本内視鏡外科学会総会ブースセミナー, 京都, 2006.
18. 藤井雅志¹, 久保田哲朗¹, 小泉和三郎¹, 瀧内比呂也¹, 吉田和弘, 馬場秀夫¹, 寺島雅典¹, 山口俊晴¹, 中島聡總¹ (¹日本癌臨床試験推進機構): 進行・再発胃癌を対照としたTaxotere/TS-1とTS-1の多施設, 多国籍第3相試験。第78回日本胃癌学会総会, 大阪, 2006.
19. 佐々木隆光¹, 吉田和弘, 志村英生¹, 藤井 済¹, 国安弘基¹ (¹奈良医科大学病理学): PPAR γ の癌細胞静止状態成立への関与。第65回日本癌学会総会, 横浜, 2006.
20. 伊藤玲子¹, 眞田雄市, 吉田和弘, 大上直秀¹, 安井 弥¹ (¹広島大学分子病理): Claudin-18の発現減弱は腸型形質を有する胃癌に関連している。第65回日本癌学会総会, 横浜, 2006.
21. 吉田和弘: 胃癌化学療法の最近の話題- 新戦略の理論的構築- 消化器癌化学療法フォーラム松山, 松山, 2006.
22. 吉田和弘: GISTの診断と治療- 最近の話題- 播磨GISTセミナー。姫路, 2006.
23. 吉田和弘: SAMIT studyに参加して。SAMITセミナー, 広島, 2006.
24. 吉田和弘: 食道癌・胃癌治療の最近の話題。第8回広島中部地区臨床外科談話会, 広島, 2006.
25. 吉田和弘: 食道癌・胃癌治療の最前線。第193回佐伯臨床研修会, 広島, 2006.
26. 吉田和弘: 胃癌化学療法の最近の話題。長崎胃癌化学療法学術講演会, 長崎, 2006.
27. 吉田和弘: 胃癌化学療法におけるTaxaneの有用性について- 基礎から臨床へ- Taxotere発売10周年記念講演会, 博多, 2006.

28. 吉田和弘：胃癌化学療法 of 最近の話題S-1+Docetaxelの有用性について－基礎から臨床へ－．下関医師会学術講演会，下関，2006.
29. 吉田和弘：がんの先端医療－診断から治療まで－胃癌．第31回日本外科学会市民公開講座，広島，2006.
30. 吉田和弘：胃癌化学療法におけるTaxaneの有用性について－基礎から臨床へ－．Taxotere発売10周年記念講演会，広島，2006.
31. 吉田和弘：胃癌化学療法の潮流．兵庫肺・消化器癌化学療法勉強会，神戸，2006.
32. 吉田和弘：食道癌治療の最前線．第36回広島頭頸部腫瘍研究会，広島，2006.
33. 吉田和弘：胃癌化学療法におけるTaxaneの有用性について－基礎から臨床へ－．Taxotere発売10周年記念講演会，大阪，2006.
34. 吉田和弘：胃癌化学療法の潮流．北陸胃癌化学療法フォーラム，金沢，2006.
35. 吉田和弘：胃癌化学療法におけるタキサン of 有用性．山梨胃癌化学療法学術講演会，甲府，2006.
36. 吉田和弘：胃癌におけるDocetaxelとS1併用療法の有用性について．阪神胃癌化学療法フォーラム，大阪，2006.
37. 大崎昭彦，松浦一生，大下純子，村上 茂，吉田和弘，山口佳之：乳癌の骨髄およびセンチネルリンパ節における微小転移の臨床的意義．第106回日本外科学会総会，東京，2006.
38. 大崎昭彦，松浦一生，大下純子，村上 茂，吉田和弘，山口佳之：乳癌の骨髄およびセンチネルリンパ節における微小転移の臨床的意義．第14回日本乳癌学会総会，金沢，2006.
39. 檜原 淳，浜井洋一，恵美 学，田邊和照，右近 圭，大下純子，吉田和弘，山口佳之：薬剤による食道癌手術侵襲反応軽減の試み？ ステロイドとエラスターゼ阻害剤の比較？．第106回日本外科学会総会，東京，2006.
40. 檜原 淳，浜井洋一，恵美 学，右近 圭，田邊和照，吉田和弘，山口佳之，権丈雅浩*，村上祐司*，松浦寛司*，和田崎晃一*（*広島大学大学院放射線医学）：進行食道扁平上皮癌に対するdocetaxel，5FU同時併用化学放射線療法．第60回日本食道学会学術集会，東京，2006.
41. 檜原 淳，浜井洋一，恵美 学，田邊和照，右近 圭，大下純子，水入寛純，吉田和弘，山口佳之：切除不能進行食道癌に対するdocetaxel，5FU同時併用化学放射線療法の臨床第I相試験．第61回日本消化器外科学会総会，横浜，2006.
42. 檜原 淳，浜井洋一，恵美 学，右近 圭，田邊和照，吉田和弘，山口佳之，権丈雅浩*，村上祐司*，松浦寛司*，和田崎晃一*（*広島大学放射線科）：進行食道扁平上皮癌に対するdocetaxel，5FU同時併用化学放射線療法の臨床第I相試験．第44回日本癌治療学会総会，東京，2006.
43. 檜原 淳，浜井洋一，恵美 学，田邊和照，右近 圭，水入寛純，弘中克治，吉田和弘，山口佳之：進行食道癌に対する集学的治療？ 術前化学放射線療法の治療成績．第68回日本臨床外科学会総会 パネルディスカッション2 “食道癌に対する集学的治療”，広島，2006.

44. 檜原 淳, 二宮基樹¹⁾, 平林直樹²⁾, 吉田和弘, 漆原 貴³⁾, 高橋忠照⁴⁾, 奥道恒夫⁵⁾, 嶋谷邦彦⁶⁾ (¹⁾ 広島市立広島市民病院外科, ²⁾ 広島市立安佐市民病院外科, ³⁾ 県立広島病院一般外科, ⁴⁾ 東広島医療センター外科, ⁵⁾ 吉島病院外科, ⁶⁾ 広島西医療センター外科) : 広島地区における上部消化管吻合手技の現状? 広島GISクラブアンケート集計結果より. 第68回日本臨床外科学会総会, 広島, 2006.
45. 檜原 淳, 浜井洋一, 恵美 学, 田邊和照, 右近 圭, 水入寛純, 弘中克治, 吉田和弘, 山口佳之: 生体侵襲反応の制御と食道癌の長期治療成績. 第13回外科侵襲とサイトカイン研究会, 宇部, 2006.
46. 村上 茂, 恵美純子, 吉田和弘: 読影カンファレンスを通じた検診精度向上への取り組み. 第14回日本乳癌検診学会総会, 仙台, 2006.
47. 村上 茂, 大下純子, 沖田理貴: 高解像度モニターによる乳癌検診の新たな展望 (企画公演). 第14回日本乳癌学会総会, 金沢, 2006.
48. 村上 茂, 恵美純子: 乳癌術前検査としてのPET (positron emission tomography) の評価 (ワークショップ). 第68回日本臨床外科学会総会, 広島, 2006.
49. 村上 茂, 大下純子, 沖田理貴, 大崎昭彦: 当科におけるセンチネルリンパ節生検と腋窩郭清省略への取り組み. 第36回広島乳腺疾患研究会, 広島, 2006.
50. 田邊和照, 浜井洋一, 右近 圭, 桧原 淳, 吉田和弘: 胃排出能, 愁訴, 栄養状態から見た幽門保存胃切除術の意義. 第78回日本胃癌学会総会, 大阪, 2006.
51. 田邊和照, 浜井洋一, 右近 圭, 桧原 淳, 吉田和弘: 胃排出能, 愁訴, 栄養状態から見た幽門保存胃切除術の意義. 第106回日本外科学会総会, 東京, 2006.
52. 田邊和照, 吉田和弘, 浜井洋一, 右近 圭, 水入寛純, 恵美 学, 桧原 淳, 山口佳之: 胃排出能, 愁訴, 栄養状態からみた幽門保存胃切除術の意義. 第61回日本消化器外科学会総会, 横浜, 2006.
53. 田邊和照, 浜井洋一, 右近 圭, 桧原 淳, 吉田和弘: 術後機能評価からみた幽門保存胃切除術の意義. 第44回日本癌治療学会総会, 東京, 2006.
54. 田邊和照, 浜井洋一, 右近 圭, 桧原 淳, 吉田和弘: 幽門保存胃切除術後の機能評価の検討. 第68回日本臨床外科学会総会, 広島, 2006.
55. 右近 圭, 吉田和弘, 恵美 学, 浜井洋一, 田邊和照, 檜原 淳, 山口佳之: U領域胃癌の郭清範囲の検討 (当科治癒切除116例の解析). 第78回胃癌学会, 大阪, 2006.
56. 右近 圭, 吉田和弘, 恵美 学, 浜井洋一, 田邊和照, 檜原 淳, 山口佳之: U領域胃癌の郭清範囲の検討 (当科120例の解析). 第106回日本外科学会, 東京, 2006.
57. 右近 圭, 吉田和弘, 恵美 学, 浜井洋一, 田邊和照, 檜原 淳, 山口佳之: 切除不能胃癌に対する姑息的放射線化学療法の効果. 第52回国際外科学会日本部会, 東京, 2006.
58. 右近 圭, 吉田和弘, 田邊和照, 水入寛純, 浜井洋一, 恵美 学, 桧原 淳, 山口佳之: 高度進行・再発胃癌に

対する姑息的放射線化学療法の有用性. 第68回日本臨床外科学会, 広島, 2006.

59. 右近 圭, 吉田和弘, 弘中克治, 水入寛純, 恵美 学, 浜井洋一, 田邊和照, 檜原 淳, 有広光司*, 田利 晶**, 山口佳之 (*広島大学病理部, **広島赤十字原爆病院内科): 完全内臓逆位に合併した胃GISTの一切除例. 第11回中国四国内視鏡外科研究会, 岡山, 2006.
60. 右近 圭, 吉田和弘, 田邊和照, 檜原 淳, 山口佳之: 内臓逆位に合併した胃GISTの一切除例. 第19回日本内視鏡外科研究会, 京都, 2006.
61. 右近 圭, 吉田和弘, 弘中克治, 水入寛純, 恵美 学, 浜井洋一, 田邊和照, 檜原 淳, 山口佳之: 内臓逆位を伴った胃GISTの一切除例. 第108回広島消化器病研究会, 広島, 2006.
62. 右近 圭, 吉田和弘, 恵美 学, 浜井洋一, 田邊和照, 檜原 淳, 山口佳之: 切除不能な進行・再発胃癌に対する姑息的放射線化学療法の検討. 第4回広島CARP研究会, 広島, 2006.
63. 伊藤正興, 右近 圭, 弘中克治, 水入寛純, 恵美 学, 浜井洋一, 田邊和照, 檜原 淳, 有広光司*, 山口佳之, 田利 晶**, 吉田和弘 (*広島大学病理部, **広島赤十字原爆病院内科): 完全内臓逆位に合併した胃GISTの一切除例. 第91回広島がん治療研究会, 広島, 2006.
64. 浜井洋一, 檜原 淳, 恵美 学, 大下純子, 沖田理貴, 右近 圭, 田邊和照, 吉田和弘, 山口佳之: 進行食道癌に対するdocetaxel, 5-FUを用いたneoadjuvant chemoradiotherapyの検討. 第106回日本外科学会総会. 東京, 2006.
65. 浜井洋一, 檜原 淳, 恵美純子, 沖田理貴, 水入寛純, 恵美 学, 右近 圭, 田邊和照, 吉田和弘, 山口佳之: cT4食道癌に対する化学放射線療法の成績と外科治療の意義. 第60回日本食道学会学術集会. 東京, 2006.
66. 浜井洋一, 檜原 淳, 恵美 学, 田邊和照, 右近 圭, 水入寛純, 弘中克治, 吉田和弘, 山口佳之: 進行食道癌に対する術前化学放射線療法の治療成績. 第81回中国四国外科学会. 岡山, 2006.
67. 浜井洋一, 檜原 淳, 大下純子, 沖田理貴, 水入寛純, 恵美 学, 右近 圭, 田邊和照, 吉田和弘, 山口佳之: T4食道癌に対する集学的治療の成績. 第61回日本消化器外科学会総会. 横浜, 2006.
68. 浜井洋一, 吉田和弘, 田邊和照, 右近 圭, 水入寛純, 恵美 学, 檜原 淳, 山口佳之: 前化学療法を有する進行再発胃癌に対するCPT-11/CDDP併用療法の検討. 第78回日本胃癌学会総会. 大阪, 2006.
69. 浜井洋一, 吉田和弘, 大下純子, 沖田理貴, 水入寛純, 恵美 学, 右近 圭, 田邊和照, 檜原 淳, 山口佳之: 進行再発胃癌に対する2nd line, 3rd line chemotherapyとしてのCPT-11/CDDP併用療法の検討. 第44回日本癌治療学会総会. 東京, 2006.
70. 浜井洋一, 檜原 淳, 恵美 学, 弘中克治, 水入寛純, 右近 圭, 田邊和照, 吉田和弘, 山口佳之: 食道癌術後の再建結腸壊死に対しSkin tube再建を行った1例. 第68回日本臨床外科学会総会. 東京, 2006.
71. 恵美学, 吉田和弘, 右近 圭, 田邊和照, 山口佳之: イマチニブ投与により縮小手術が可能になったと考えられる十二指腸gastrointestinal stromal tumorの1例. 第44回日本癌治療学会総会, 東京, 2006.

72. 恵美 学, 檜原 淳, 浜井洋一, 吉田和弘, 山口佳之: 当科における食道表在癌の治療成績. 第60回日本食道学会, 東京, 2006.
73. 恵美 学, 吉田和弘, 田邊和照, 右近 圭, 浜井洋一, 山口佳之: 胸腔内腫瘍として発見された食道胃接合部のGISTの一例. 第78回日本胃癌学会, 大阪, 2006.
74. 恵美 学, 弘中克治, 山口佳之: 進行・再発大腸癌に対するTS1+CPT-11併用化学療法. 第61回日本大腸肛門病学会, 弘前, 2006.
75. 恵美 学, 檜原 淳, 浜井洋一, 田邊和照, 右近 圭, 吉田和弘, 山口佳之: 食道表在癌切除例の検討. 第61回日本消化器外科学会総会, 横浜, 2006.
76. 恵美 学, 弘中克治, 山口佳之: 進行・再発大腸癌に対するTS1+CPT-11併用化学療法. 第65回日本大腸癌研究会, 弘前, 2006.
77. 恵美 学, 檜原 淳, 浜井洋一, 田邊和照, 右近 圭, 大下純子, 水入寛純, 沖田理貴, 吉田和弘, 山口佳之: 食道表在癌の外科治療成績. 第16回広島食道疾患懇話会, 広島, 2006.
78. 恵美 学, 弘中克治, 山口佳之: 結腸・直腸癌に対する小切開開腹手術 (One Hand-Size Incision Surgery) .第166回広島外科会, 広島, 2006.
79. 恵美 学, 山口佳之, 弘中克治, 大段秀樹*, 板本敏行*, 浅原利正*, 有広光司** (*創生医科学専攻先進医療開発科学講座外科, **広島大学病理部): TS-1+オキサリプラチンでpCRが得られた大腸癌肝転移の1例. 第59回広島医学会総会, 広島, 2006.
80. 水入寛純, 吉田和弘, 田辺和照, 右近 圭, 峠 哲哉: 胃癌術後における二次癌発生と術後フォローアップの方法に関する検討. 第78回日本胃癌学会総会, 大阪, 2006.
81. 水入寛純, 檜原 淳, 田辺和照, 右近 圭, 浜井洋一, 恵美 学, 吉田和弘, 山口佳之: 化学療法が奏効した食道小細胞癌の一例. 第60回日本食道学会学術集会, 東京, 2006.
82. 水入寛純, 吉田和弘, 田辺和照, 右近 圭, 浜井洋一, 恵美 学, 檜原 淳, 山口佳之: 高度進行・再発胃癌に対する2nd lineとしてのWeekly Paclitaxelの有用性. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 横浜, 2006.
83. 水入寛純, 村上 茂, 大下純子, 大崎昭彦, 有広光司: 乳管内進展様の発育形態を示した乳腺腺筋上皮腫の1症例. 第14回日本乳癌学会学術総会, 金沢, 2006.
84. 水入寛純, 吉田和弘, 田辺和照, 右近 圭, 浜井洋一, 檜原 淳, 山口佳之: 胃癌, 肝転移, 脾浸潤, リンパ節転移に対しdocetaxel, TS-1併用療法が奏効し, 手術を施行した一例. 第44回日本癌治療学会学術総会, 東京, 2006.
85. 沖田理貴, 大住省三*, 平 成人*, 青儀健二郎*, 佐伯俊昭*, 高嶋成光*, 西村理恵子** (*四国がんセンター外科, **同臨床検査科): 同時性肝転移を伴ったintracystic papillary carcinomaの1例. 第14回日本乳癌学会総会, 金沢, 2006.

86. 沖田理貴, 山口佳之, 大下純子: 制御性T細胞の機能調性を付加した癌免疫療法の開発. 第48回日本消化器病学会総会 (DDW-Japan), 札幌, 2006.
87. 沖田理貴, 山口佳之, 長嶺一郎, 池田拓広, 大原正裕, 岡脇 誠, 弘中克治, 大下純子, 松浦一生, 檜原 淳: Regulatory T細胞の制御を併用したL A K細胞誘導の解析. 第27回癌免疫外科研究会, 北九州, 2006.
88. 沖田理貴, 山口佳之, 岡脇 誠, 大原正裕, 池田拓広, 弘中克治, 長嶺一郎, 松浦一生, 恵美純子, 檜原 淳: 低用量抗CD25抗体によるregulatory T細胞制御の臨床研究. 第19回日本バイオセラピー学会, 福岡, 2006.
89. 沖田理貴, 長嶺一郎, 池田拓広, 大原正裕, 岡脇誠, 弘中克治, 大下純子, 松浦一生, 檜原淳, 山口佳之: 抗CD25抗体および抗CTLA-4抗体による活性化リンパ球の誘導増強効果. 第44回日本癌治療学会総会, 東京, 2006.
90. 沖田理貴, 清水克彦: 同一肺葉内に発生した同時性3重複扁平上皮癌の1例. 第23回日本呼吸器外科学会総会, 東京, 2006.
91. 山下芳典*, 向田秀則*, 片岡和彦*, 松浦求樹*, 妹尾紀具*, 石田照佳*, 宮原栄治*, 渡 正伸*, 奥道恒夫*, 宮田義浩*, 沖田理貴 (*広島呼吸器外科カンファレンス): 外来治療を目指した術後補助化学療法 weekly Paclitaxel+CBDCAのfeasible study. 第47回日本肺癌学会総会, 京都, 2006.
92. 片岡和彦*, 松浦求樹*, 妹尾紀具*, 向田秀則*, 山下芳典*, 塚本修一*, 石田照佳*, 沖田理貴, 宮田義浩*, 渡 正伸*, 宮原栄治*, 奥道恒夫* (*広島呼吸器外科カンファレンス): 肺癌のアジュバント治療 (術前・術後) 外来での安全性を目指した術後補助化学療法 weekly Paclitaxel+CBDCAのphase II study. 第23回日本呼吸器外科学会総会, 東京, 2006.
93. 清水克彦*, 沖田理貴 (*川崎医科大学胸部心臓血管外科): Weekly Paclitaxel+CBDCA のphase II study. 第4回日本臨床腫瘍学会総会, 大阪, 2006.
94. 沖田理貴, 松浦一生, 清水克彦*, (*川崎医科大学胸部心臓血管外科): 転移・再発大腸癌に対するOxaliplatin/5-FU/1-LV併用療法の使用経験. 第4回日本臨床腫瘍学会総会, 大阪, 2006.
95. 沖田理貴, 山口佳之, 長嶺一郎, 池田拓広, 大原正裕, 岡脇 誠, 弘中克治, 大下純子, 松浦一生, 小西和男, 檜原 淳: 抗CD25抗体および抗CTLA-4抗体による活性化リンパ球の誘導増強効果. 第65回日本癌学会総会, 横浜, 2006.
96. 大下純子, 沖田理貴, 村上 茂, 大崎昭彦, 有広光司* (*広島大学病院 病理部): 乳癌術前検査としてのPET (positron emission tomography) の評価, 第14回日本乳癌学会総会, 金沢, 2006.
97. 大下純子, 沖田理貴, 村上 茂, 大崎昭彦: 当科におけるVinorelbineの使用経験. 中国化学療法研究会, 広島, 2006.
98. 恵美純子, 沖田理貴, 村上 茂, 吉田和弘, 山口佳之, 有広光司* (*広島大学病院 病理部): Pleomorphic carcinomaと診断された1例. 第3回日本乳癌学会中四国地方会, 松山, 2006.
99. 鈴木崇久, 大崎昭彦, 津谷康大, 埴本純哉, 和田幸之, 吉田和弘, 山口佳之: 乳腺腫瘍においてOPRT・T S・

D P D 蛋白・mRNAの発現は5-FU系抗癌剤の抗腫瘍効果予測因子となりうるか. 第14回日本乳癌学会総会, 金沢, 2006.

100. 鈴木崇久, 宮原栄治, 津谷康大, 南 一仁, 亀田 彰, 野宗義博: Gemcitabine投与が無効であったがS-1単独投与が有効であった膵臓癌術後再発の1例. 第61回日本消化器外科学会総会, 横浜, 2006.
101. 大枝 守, 吉田和弘, 津谷康大, 重松英朗, 眞田雄市, 和田幸之, 小西和男, 田辺和照, 右近 圭: 胃癌におけるOPRT, D P D, T Sの発現と5-FU系抗癌剤の治療効果との相関. 第44回日本癌治療学会総会, 京都, 2006.
102. 大枝 守, 吉田和弘, 眞田雄市, 津谷康大, 小西和男, 田辺和照, 右近 圭: 胃癌におけるOPRTの発現と臨床病理学的因子との検討. 第78回日本胃癌学会総会, 大阪, 2006.
103. 大枝 守, 吉田和弘, 眞田雄市, 小西和男, 和田幸之, 田辺和照, 右近 圭: 胃癌におけるOPRT・D P Dの発現と臨床病理学的因子との検討. 第106回日本外科学会学術集会, 東京, 2006.
104. 大枝 守, 吉田和弘, 眞田雄市, 和田幸之, 津谷康大, 田辺和照, 右近 圭, 浜井洋一: 胃癌におけるOPRT・D P D・T Sの発現と臨床病理学的因子との検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 横浜, 2006.
105. 重松英朗, 吉田和弘, 和田幸之, 小西和男, 大枝 守, 津谷康大, 田辺和照: 胃癌細胞株に対するmTOR標的治療の有用性. 第17回日本消化器癌発生学会, 名古屋, 2006.
106. 津谷康大, 吉田和弘, 大枝 守, 眞田雄市, 重松英朗, 和田幸之, 鈴木崇久, 小西和男, 檜原 淳: 食道癌における thymidylate synthase (TS), dihydropyrimidine dehydrogenase (DPD), orotate phosphoribosyltransferase (OPRT) 発現の検討. 第44回日本癌治療学会, 東京, 2006.
107. 津谷康大, 吉田和弘, 大枝 守, 眞田雄市, 重松英朗, 和田幸之, 鈴木崇久, 小西和男, 檜原 淳: 食道癌切除標本におけるorotate phosphoribosyltransferase (OPRT) 発現の検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 横浜, 2006.
108. 津谷康大, 鈴木崇久*, 南 一仁*, 宮原栄治*, 亀田 彰*, 野宗義博* (*済生会広島病院外科): 術前化学療法を施行した局所進行粘液癌の一例. 第14回日本乳癌学会学術総会, 金沢, 2006.
109. 津谷康大, 鈴木崇久*, 南 一仁*, 宮原栄治*, 亀田 彰*, 野宗義博* (*済生会広島病院外科): Weekly paclitaxel → anastrozoleが奏功した局所進行乳癌の1例. 第91回広島がん治療研究会, 広島, 2006.
110. 津谷康大, 吉田和弘, 大枝 守, 眞田雄市, 重松英朗, 和田幸之, 鈴木崇久, 小西和男, 檜原 淳: 食道癌におけるOPRT及びD P D発現の意義-免疫組織学的染色における検討-. 第60回日本食道学会学術集会, 東京, 2006.
111. 和田幸之, 吉田和弘, 埴本純哉, 藤井大輔, 田辺和照, 峠 哲哉: 胃癌におけるZD1839の抗腫瘍効果および細胞増殖因子 autocrine に与える影響. 第75回日本胃癌学会, 米子, 2004.
112. 和田幸之, 吉田和弘, 埴本純哉, 上野秀晃, 藤井大輔, 峠 哲哉: 食道癌におけるZD1839の細胞増殖抑制効果. 第13回広島がんセミナー, 広島, 2003.